

第1章 笛吹市の概況と課題



第1章 笛吹市の概況と課題

1. 笛吹市の概況

(1) 広域的な立地条件

本市は、甲府盆地の東側、首都東京からほぼ100km圏に位置し、関東と中京圏を結ぶ内陸部の国土幹線軸上にあり、“桃・ぶどう日本一の郷”、石和・春日居温泉郷を擁する観光都市として知られています。

本市の総面積は山梨県全体の4.5%にあたる約201.92km²で、西は県都甲府市、北側から東側は山梨市と甲州市、南側は御坂山地を隔てて富士河口湖町に接しています。

市域は、北に大蔵経寺山や兜山、南に御坂山系の山々が連なり、盆地平坦部に形成された市街地や集落地と、それを取り囲むように果樹地帯が山麓まで広がっています。

本市には、JR中央本線（石和温泉駅、春日居町駅）、中央自動車道（一宮御坂IC、笛吹八代スマートIC）があり、東京と約90分で結び、長野・名古屋方面とも結んでいます。

広域幹線道路では、東京と長野県松本方面を結ぶ国道20号が東西軸を形成し、奥多摩方面を結ぶ国道411号、秩父方面を結ぶ西関東連絡道路や国道140号、河口湖方面を結ぶ国道137号が通っており、広域交通の要衝となっています。

今後、市内では新山梨環状道路（東部区間・北部区間）の整備をはじめ、本市西側に近接してリニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定されているなど、広域的な交通アクセスの一層の向上と更なる地域の発展が期待されています。

■ 笛吹市の広域的な交通条件



(2) 笛吹市の特色

①日本有数の桃・ぶどうの郷

本市は、土壌が肥沃で排水がよく、日照時間が長いうえに昼夜の気温差が大きいなど、果樹栽培に適した土地で、日本有数の果樹地帯となっています。

特に、桃・ぶどうは栽培面積、収穫量、出荷量いずれも全国市町村の中で一番を誇っており、果樹園に囲まれた特色ある樹園景観、ワイナリーなども全国的に知名度を高めており、名実ともに「桃・ぶどう日本一の郷」としてこれまで歩んできました。

歴史ある日本の果樹栽培を先導してきた先人の偉業をたたえ、平成 17 年 10 月に「桃・ぶどう日本一の郷」を宣言しています。平成 29 年 3 月には農林水産省により、「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」として日本農業遺産*1に認定されました。

また、ぶどう畑の広がる独特の景観は、平成 30 年 5 月に文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景～山梨県峡東地域～」として日本遺産*2に認定されました。

②古代ロマンあふれる郷～「甲斐国千年の都」

本市の歴史は古く、旧石器時代から人々が生活し、古代では甲斐国の政治・文化の中心地、中世は武田家ゆかりの地、江戸時代は石和の宿場町、甲州街道、若彦路、鎌倉街道、秩父路の往来の要衝として栄えてきた歴史があります。

市内には縄文時代の釈迦堂遺跡や一の沢遺跡など全国的に名の通った遺跡のほか、岡銚子塚古墳や竜塚古墳、姥塚古墳といった古墳時代の遺跡など、貴重な歴史文化的資源が数多く分布しています。釈迦堂・一の沢・桂野遺跡からの出土品の一部は、平成 30 年 5 月に文化庁により、「星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鋳山と縄文人に会う旅―」として認定された日本遺産の構成遺産となっています。

特に、山梨県最古の寺である寺本廃寺跡や甲斐国府、国衙、甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡、甲斐国唯一の御厨である石和御厨が存在したと伝えられるなど、本市は古代の甲斐の国成り立期から 1519 年の武田館の甲府移転までの約千年の間、甲斐国の政治・文化の中心として大きな役割を担ってきました。本市は平成 21 年 10 月に「甲斐国千年の都 笛吹市」を宣言しています。

③癒しの温泉と季節を彩る祭りやイベント

全国屈指の温泉郷である石和温泉、春日居温泉は、山梨県の観光宿泊拠点として四季を通じて多くの観光客を迎え入れており、近津用水のせせらぎやまちなみなど、昔をしのぶ温泉街の風情が色濃く残っています。恵まれた温泉資源を活用した公営温泉施設や足湯広場は、市民や観光客の癒しの場、憩いの場として親しまれています。

また、春の「桃源郷春まつり」「笈形焼き」「笛吹市桃の里マラソン大会」「すずらんの里まつり」、夏の「甲斐いちのみや大文字焼き」「笛吹川石和鶴飼」「石和温泉花火大会」、秋の「川中島合戦戦国絵巻」など、季節を彩る祭り・イベントが行われ、多くの人々が訪れています。

④豊かな自然と個性的で美しい景観

本市は、北部に大蔵経寺山や兜山、南部の御坂山系の山々に囲まれ、森林や水辺など豊かな自然に恵まれています。特に、芦川の源流域にはニホンスズランが自生しており、日本でも有数の群生地となっています。

また、笛吹川とその支流が創り出した肥沃な土地の恩恵を受け、市街地や集落地周辺から山麓一帯には桃やぶどうなどの果樹園が広がり、春にはまち全体が一面ピンクに彩られるなど、本市特有の美しい景観を見せてくれます。

そのほか、山麓からは甲府盆地の美しい夜景や南アルプスの山々が眺められ、新道峠は富士山を眺める絶好の眺望場所としても知られています。

注) *1 日本農業遺産：我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を「日本農業遺産」として農林水産省が認定するものです。

*2 日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。

(3) 笛吹市の概況

1) 自然条件

①気候

気候は温暖で雨や雪は少なく、年平均気温 13.7 度、年平均降水量は 1,050mm 程度となっています。一方、盆地特有の内陸性気候で、夏と冬、昼と夜の温度差は大きく、日照時間が長いため、果樹栽培に適した気候となっています。

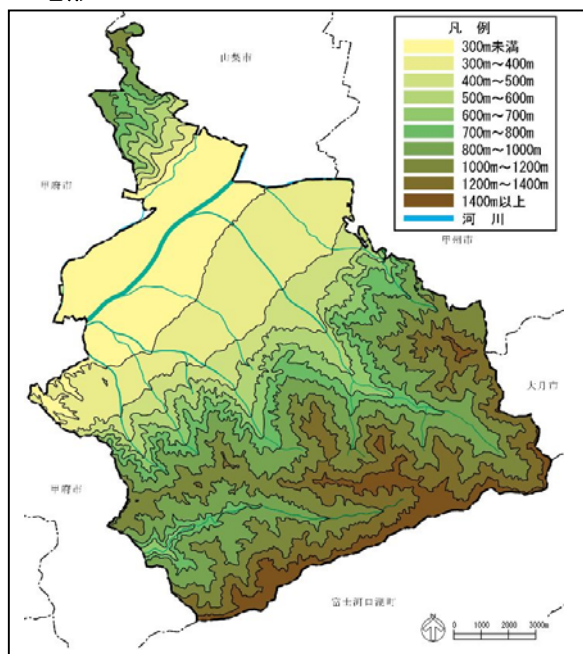
②地形・水系

本市の地形は、北に大蔵経寺山や兜山、南に御坂山系の山々に囲まれた盆地を形成しており、大きく山地・丘陵地と山麓の扇状地、盆地底部の沖積平地で構成されています。

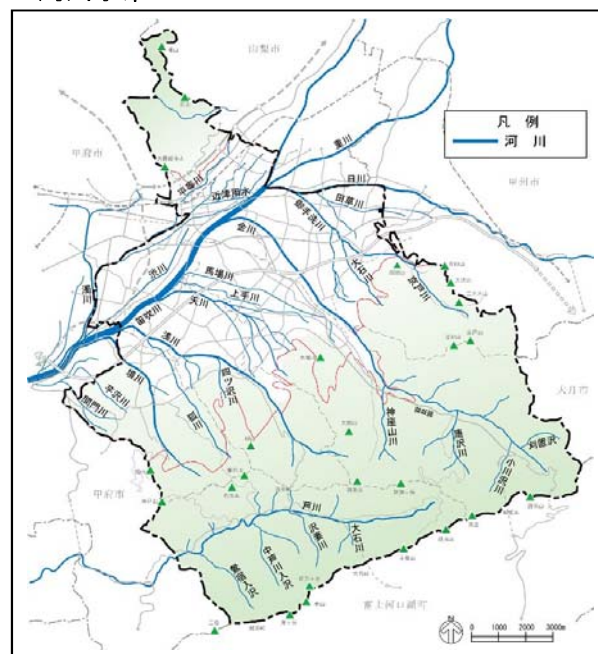
河川水系は、市の中央を西に流れる笛吹川水系に属しており、山地から流れる日川、金川、浅川、境川等の河川が合流しています。また、芦川地区を流れる芦川は、甲府市、市川三郷町を経て、笛吹川最下流部に合流し、富士川に注いでいます。

全体に河川は急流河川が多く、過去には大きな水害もたびたび発生しています。

■地形



■河川水系



③自然環境

市域面積の約6割は森林で占められ、山、森、水と水辺など豊かな自然環境に恵まれています。

山梨百名山に数えられている北部の大蔵経寺山や兜山、南部の御坂山系に属する達沢山、春日山、釈迦ヶ岳、黒岳などの山々は、登山・トレッキングコースが整備され、多くの人々に利用されています。

また、笛吹川の水辺、稲山ケヤキの森、四ツ沢川、八代ふるさと公園、みさか桃源郷公園、森林公園金川の森、花見台・金沢憩いの森公園、御坂路さくら公園、藤壘の滝周辺などは、自然とのふれあいの場として市民に親しまれています。

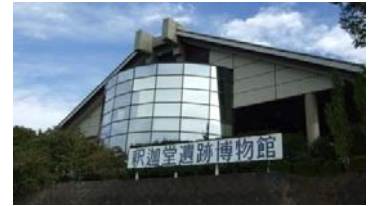
芦川の源流域にある日本有数のニホンズランの群生地やブナの原生林が分布する黒岳周辺は、「山梨県自然環境保全条例」に基づき、それぞれ「自然記念物」及び「保存地区」に指定されています。

2) 歴史的な特色

①都市の成り立ち

■縄文時代・古墳時代

本市の歴史は古く、縄文時代の釈迦堂遺跡・一の沢遺跡からは珍しい遺物が数多く出土し、重要文化財に指定されています。古墳時代には岡銚子塚古墳や竜塚古墳、姥塚古墳、経塚古墳等が築かれました。



・釈迦堂遺跡博物館

■古代

市内には甲斐国最古の寺である寺本廃寺や甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡、甲斐国唯一の御厨等が存在し、国府や国衙、国分の地名が残されているなど、古代甲斐国の政治・文化の中心地であったことがわかります。



・寺本廃寺跡

■戦国時代

戦国大名武田家の祈願寺であった慈眼寺や大蔵経寺等には武田家ゆかりの資料が残されています。また山梨岡神社の太々神楽は「武田信玄出陣の神楽」とも呼ばれ、戦勝を祈願し、奉納したと言われています。



・山梨岡神社

■江戸時代

甲州街道が整備され石和は宿場町として栄えました。また市内には古代の官道「若彦路」や歴史の道百選に指定されている「御坂路」、雁坂峠を越え秩父に通じる「秩父往還」等が通り、古来より数多くの人馬の往来がありました。



・御坂路

■明治時代

本市一宮町にあるルミエールでは、日本初のヨーロッパ型地下ワイン発酵槽が造られました。現在は、古いワイン造りの様子を伝える貴重な遺構として、登録有形文化財に指定されています。



・地下ワイン発酵槽

■現代（大正・昭和・平成）

俳壇では巨匠飯田蛇笏・龍太親子が活躍し、深沢七郎が「笛吹川」を、小川正子が「小島の春」を執筆しました。また、昭和36年に石和町で温泉が湧出し、その後の高度経済成長の流れの中で、石和・春日居温泉は一大温泉郷として、また果実の郷として発展してきました。



・温泉湧出当時の様子

②笛吹市の沿革

明治時代の初めは、江戸期から継続する約百近くの村からなっていました。その後、明治の大合併をはじめ幾多の変遷を経て、平成16年10月12日に、石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村、春日居町の5町1村が合併し、笛吹市が誕生しました。さらに、平成18年8月1日には芦川村と合併し、現在の笛吹市となりました。

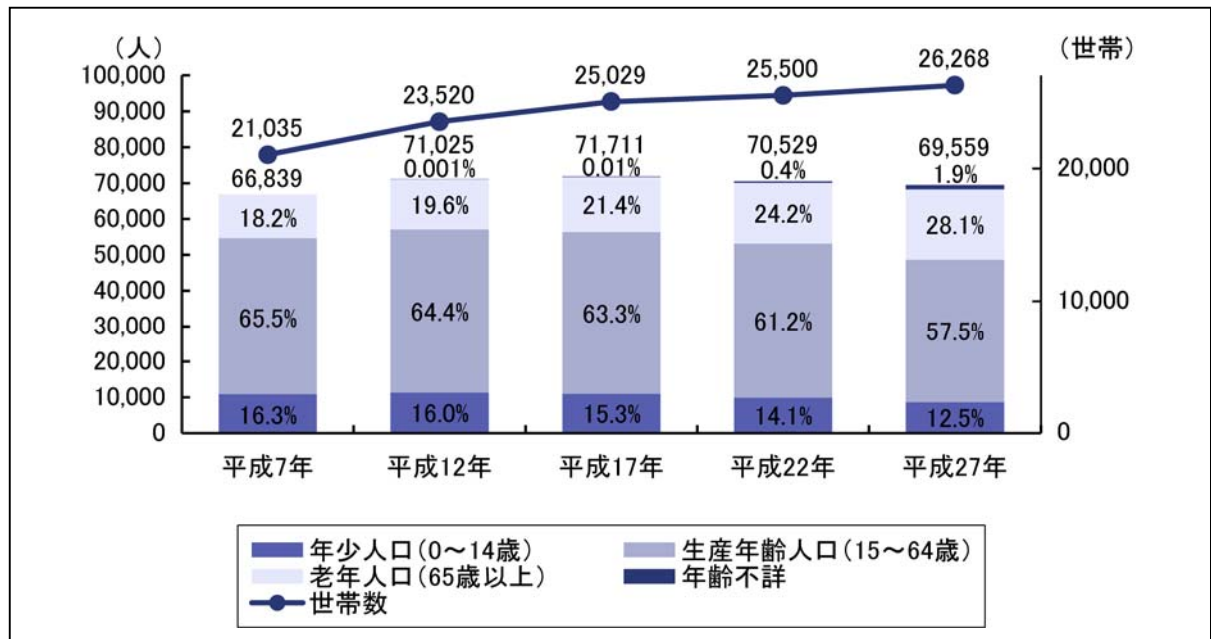
3) 人口の動向

①人口・世帯数

本市の人口・世帯数は、平成27年10月1日現在、69,559人、26,268世帯（国勢調査）で、平成17年までは順調に増加してきましたが、その後減少に転じ、近年は緩やかな減少傾向にあります。

1世帯当たり人員は、平成7年の3.18人から平成27年には2.65人と減少しており、人口が減少傾向にある中で、世帯数は増加しています。

■人口・世帯数の推移



項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口(人)	66,839	71,025	71,711	70,529	69,559
世帯数(世帯)	21,035	23,520	25,029	25,500	26,268
世帯当たり人員(人/世帯)	3.18	3.02	2.87	2.77	2.65

[資料：国勢調査]

②少子・高齢化の状況

本市の65歳以上の高齢者の割合は、平成27年で28.0%であり、全国平均の26.0%、山梨県平均の27.5%を上回り、4人に1人以上が高齢者となっています。平成12年と比べて高齢者の数は約5千人、比率で8ポイント以上も増加しており、急速な高齢化が進んでいます。

また、年少人口の割合も減少しており、少子化も進んでいます。

■年齢別人口の推移

年齢区分	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
年少人口	11,366	16.0	10,966	15.3	9,960	14.1	8,720	12.5
生産年齢人口	45,761	64.4	45,382	63.3	43,189	61.2	40,010	57.5
老年人口	13,897	19.6	15,356	21.4	17,092	24.2	19,541	28.0
総人口	71,025	100.0	71,711	100.0	70,529	100.0	69,559	100.0

注) 年少人口とは0～14歳、生産年齢人口とは15～64歳、老年人口とは65歳以上の人口をいう。

[資料：国勢調査]

③地区別人口の推移

地区別人口では、石和地区が最も多く、本市の人口の約38%が集中しており、次いで、御坂地区、一宮地区の順となっています。

人口の推移では、春日居地区が増加し、その他の地区は減少しています。特に、芦川地区の減少が著しくなっています。

■地区別人口の推移

地区	平成20年4月		令和2年4月		人口増減 (令和2年/平成20年)
	人口(人)	世帯数(世帯)	人口(人)	世帯数(世帯)	
石和地区	26,925	11,144	26,795	12,622	▲0.5%
御坂地区	12,392	4,083	11,757	4,615	▲5.1%
一宮地区	11,040	3,639	10,168	4,076	▲7.9%
八代地区	8,662	2,879	8,185	3,161	▲5.5%
境川地区	4,773	1,559	4,274	1,750	▲10.5%
春日居地区	7,191	2,858	7,380	3,281	+2.6%
芦川地区	526	235	322	179	▲38.8%
市全体	71,509	26,397	68,881	29,684	

[資料：住民基本台帳]

④都市計画区域及び用途地域の人口

都市計画区域内の人口は、本市の人口の約99%を占めています。

■都市計画区域及び用途地域の人口

区分	面積(ha)	人口	
		人口(人)	比率(%)
全市域	20,192	69,559	100.0
都市計画区域	8,820	68,835	99.0
用途地域	235	6,555	9.4

注) 人口は、平成27年実施の国勢調査による。

[資料：笛吹市都市計画基礎調査(平成29年)]

⑤通勤・通学流動の状況

市民の通勤・通学に関する流入・流出先は、甲府市が最も多く、次いで、山梨市、甲州市の順となっています。本市は、甲府市との結びつきが強い都市となっています。

■流入人口（通勤）

項目		流入者数（人）
従業地による就業者数		32,912
流入	就業者数	12,336 [流入率：37%]
流入別の流入者数	県内	11,422
	1位 甲府市	4,602
	2位 山梨市	2,033
	3位 甲州市	1,446
	4位 甲斐市	896
	5位 南アルプス市	547
	その他の市町村	1,898
県外	268	

注) 流入率：流入就業者数／従業地による就業者数×100（%）

項目		流出者数（人）
常住地による就業者数		35,536
流出	就業者数	14,960 [流出率：42%]
流出先別の流出者数	県内	13,923
	1位 甲府市	7,538
	2位 山梨市	1,538
	3位 甲州市	1,068
	4位 中央市	722
	5位 昭和町	715
	その他の市町村	2,342
県外	542	

注) 流出率：流出就業者数／常住地による就業者数×100（%）

[資料：笛吹市都市計画基礎調査（平成29年）]

■流入人口（通学）

項目		流入者数（人）
住業地による通学者数		6,284
流入	通学者数	887 [流入率：14%]
流入別の流入者数	県内	360
	1位 甲府市	168
	2位 山梨市	76
	3位 甲州市	55
	4位 甲斐市	20
	5位 大月市、中央市	7
	その他の市町村	27
県外	5	

注) 流入率：流入通学者数／住業地による通学者数×100（%）

項目		流出者数（人）
常住地による通学者数		8,572
流出	通学者数	3,175 [流出率：37%]
流出先別の流出者数	県内	2,342
	1位 甲府市	1,577
	2位 山梨市	396
	3位 甲州市	108
	4位 北杜市	36
	5位 都留市、上野原市	34
	その他の市町村	157
県外	311	

注) 流出率：流出通学者数／常住地による通学者数×100（%）

[資料：笛吹市都市計画基礎調査（平成29年）]

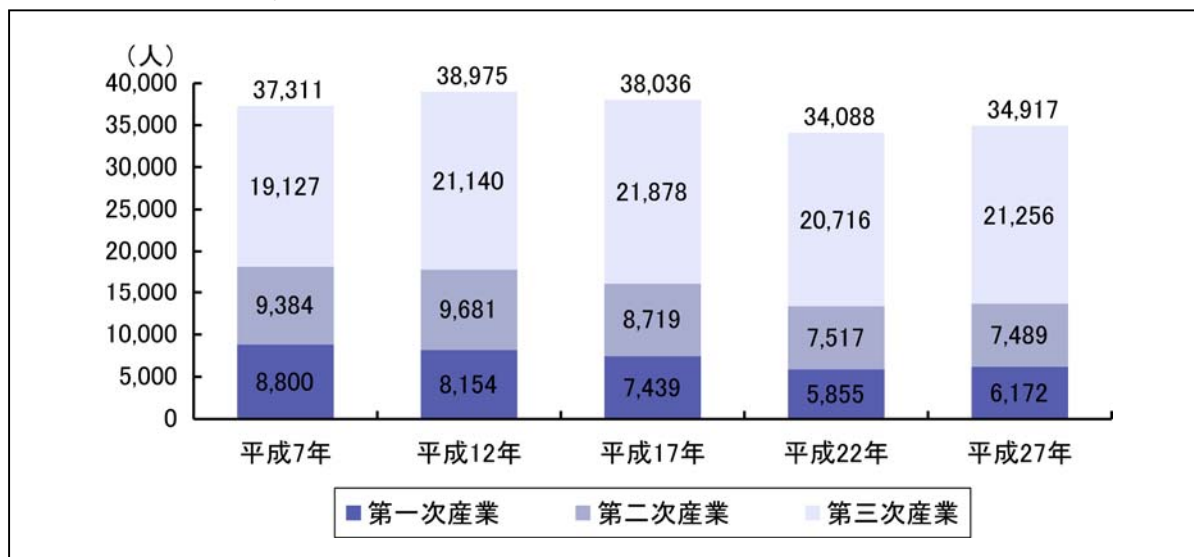
4) 産業

①産業別就業人口

本市の平成27年における産業別就業人口の構成比は、第三次産業が半数以上で最も多くなっていますが、第一次産業も17.7%を占めており、全国平均の4.0%、山梨県平均の7.3%と比べ、かなり大きな割合を占めています。

“桃・ぶどう日本一の郷”にふさわしく、基幹産業である農業の従事者が多いことがうかがえます。

■産業別就業人口の推移



[資料：国勢調査]

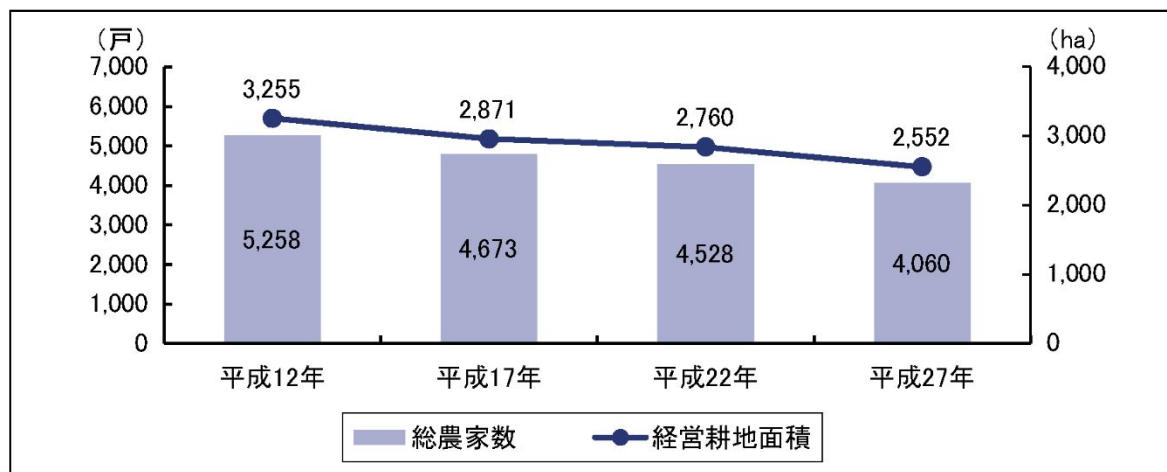
②産業の概況

(ア) 農業

農業は本市の基幹産業ですが、農家数、経営耕地面積はともに減少しています。

平成28年には、果実栽培は農業産出額の約84%を占め、果樹園地面積は経営耕地面積の約93%を占めています。

■農家戸数・経営耕地面積の推移



[資料：農業センサス]

■農業産出額の推移

項目	平成16年	平成28年
農業産出額（百万円）	20,510	20,750
うち果実産出額（百万円）	17,640	17,440
比率（%）	86.0%	84.0%

〔資料：生産農業所得統計調査〕

■農地面積の推移

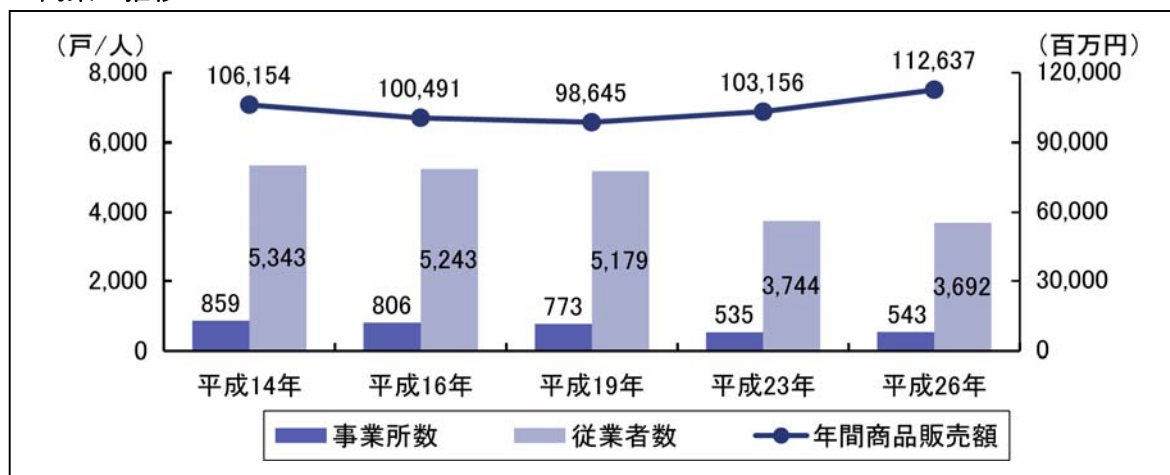
区分	平成17年	平成22年	平成27年
経営耕地面積（ha）	2,871	2,760	2,552
樹園地面積（ha）	2,684	2,557	2,372
耕作放棄地面積（ha）	165	171	195

〔資料：農業センサス〕

（イ）商業

本市の商業は、事業所数、従業者数は減少傾向にあります。年間商品販売額は横ばいの状況となっています。

■商業の推移

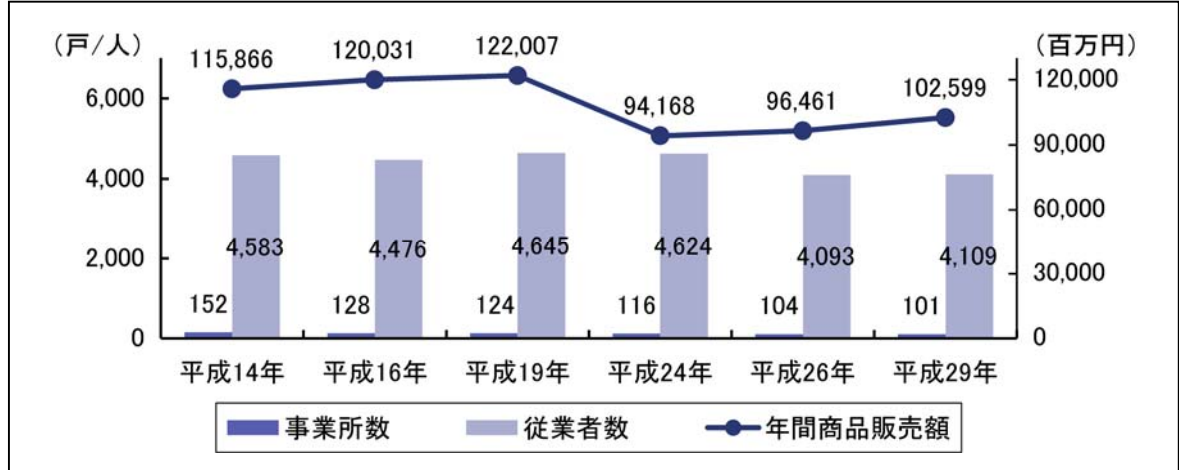


〔資料：商業統計調査〕

(ウ) 製造業

本市の製造業は、平成 29 年現在、事業所数 101 所、従事者数 4,109 人で、事業所数、従業者数ともに横ばいの状況です。製造出荷額は、平成 29 年現在、約 1,026 億円となっており、平成 24 年に大きく減少しましたが、近年は再び増加傾向にあります。

■製造業の推移



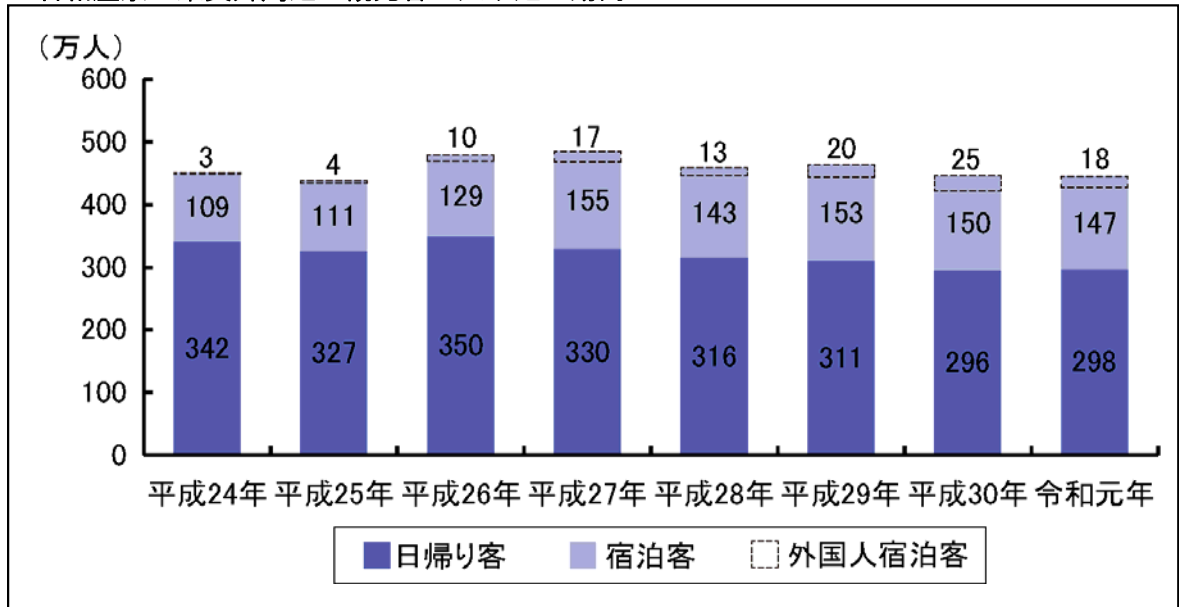
[資料：工業統計調査]

(エ) 観光

「山梨県観光入込客統計調査」結果からみると「石和温泉・果実郷周辺」には、令和元年度に年間延べ 445 万人の観光客が訪れ、観光客の数は、近年横ばい状況にあります。

日帰り客・宿泊客別にみると、宿泊客の割合が 30%を超えており、近年、宿泊客の割合が増加傾向にあります。また、令和元年度において宿泊客の約 12%が外国人客となっています。

■石和温泉・果実郷周辺の観光客の入り込み動向



[資料：山梨県観光入込客統計調査]

5) 土地利用の現況

本市の土地利用は、宅地 15.97 km² (7.9%)、農用地 32.66 km² (16.2%)、森林等 118.21 km² (58.5%) となっており、約 75%が農用地、森林といった自然的な土地利用となっています。

中心市街地は、石和温泉駅周辺から甲府バイパス周辺にかけて形成されており、各支所周辺や幹線道路沿いなどに小規模な市街地が形成されています。

平地部から山麓一帯の中山間地域には、広く農地(果樹園)が分布しており、その中に集落地が分布しています。

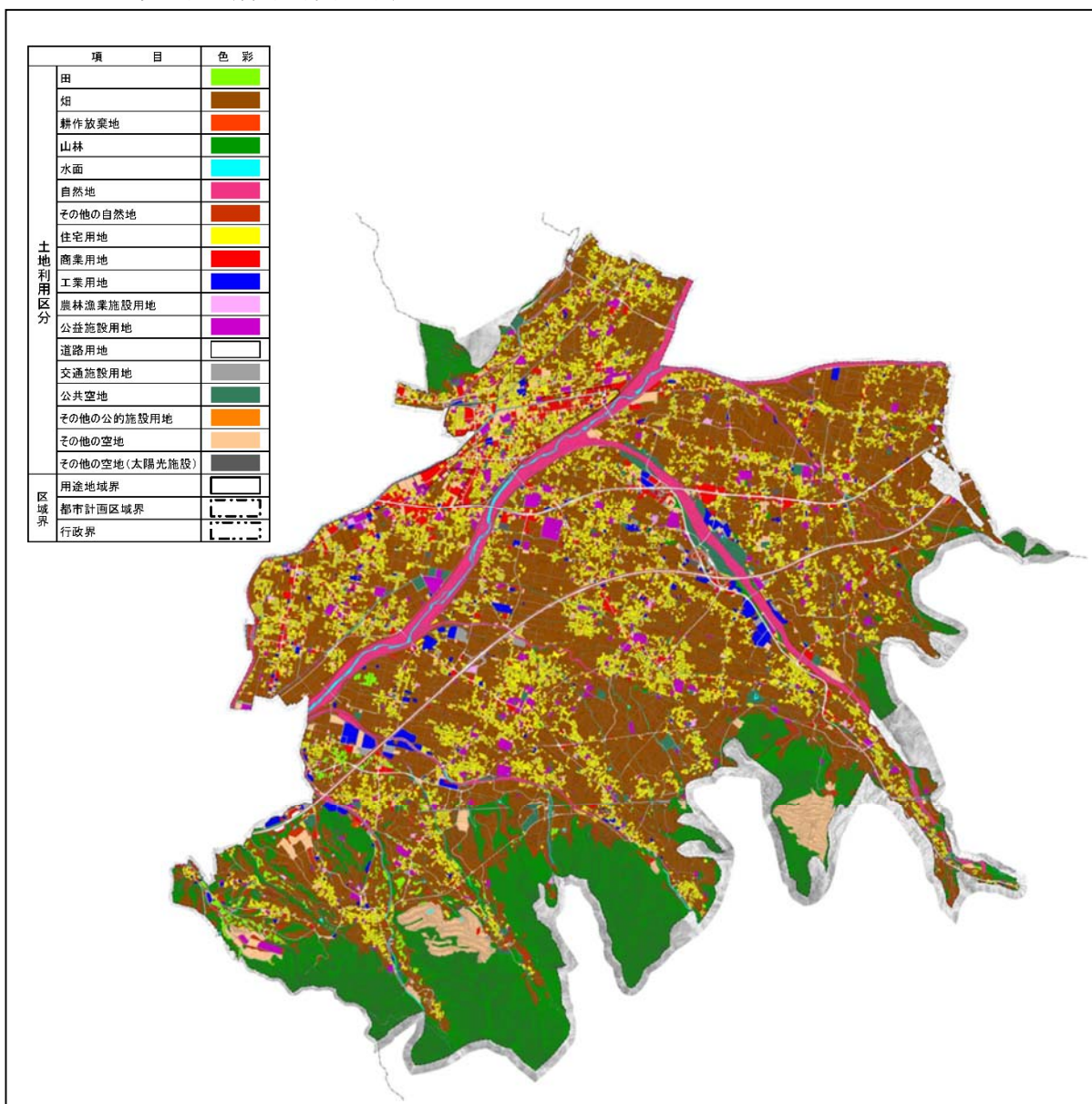
農地の宅地化が進行しており、それに伴って農地の多くを占める樹園地が減少しています。また、耕作放棄地も増加しています。

■土地利用別面積

種 別	面 積	
	面 積 (km ²)	割 合 (%)
宅 地	15.97	7.9
農 用 地	32.66	16.2
森 林 等	118.21	58.5
そ の 他	35.08	17.4

[資料：市各種資料より集計]

■土地利用現況図（都市計画区域）



[資料：笛吹市都市計画基礎調査（平成 29 年）]

6) 道路・交通の現況

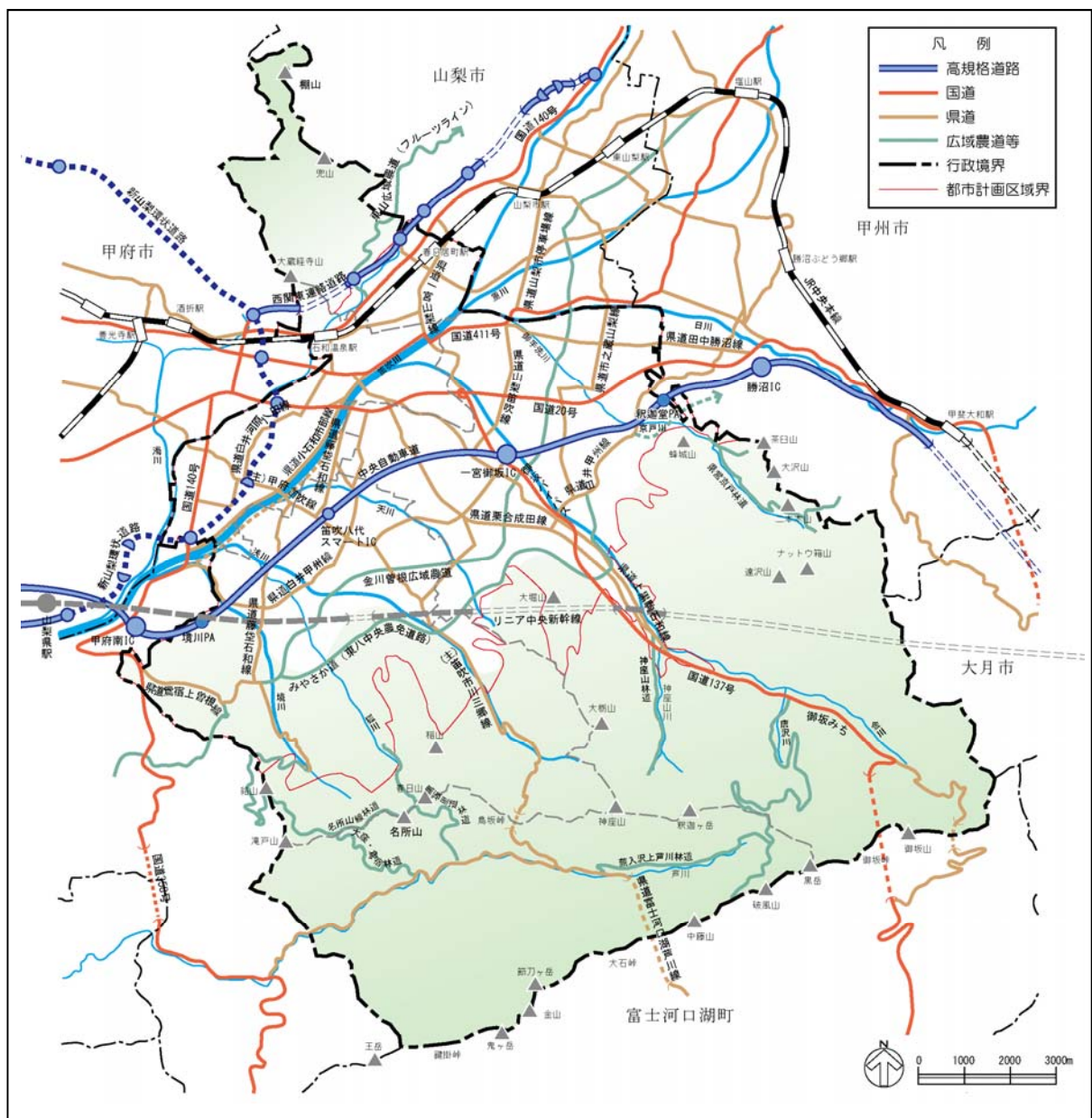
①幹線道路網

高速道路では、中央自動車道が通り、市内の一宮御坂 IC、笛吹八代スマート IC をはじめ、市の東西の入り口には勝沼 IC・甲府南 IC があり、東京方面や長野・名古屋方面からのアクセスに優れています。

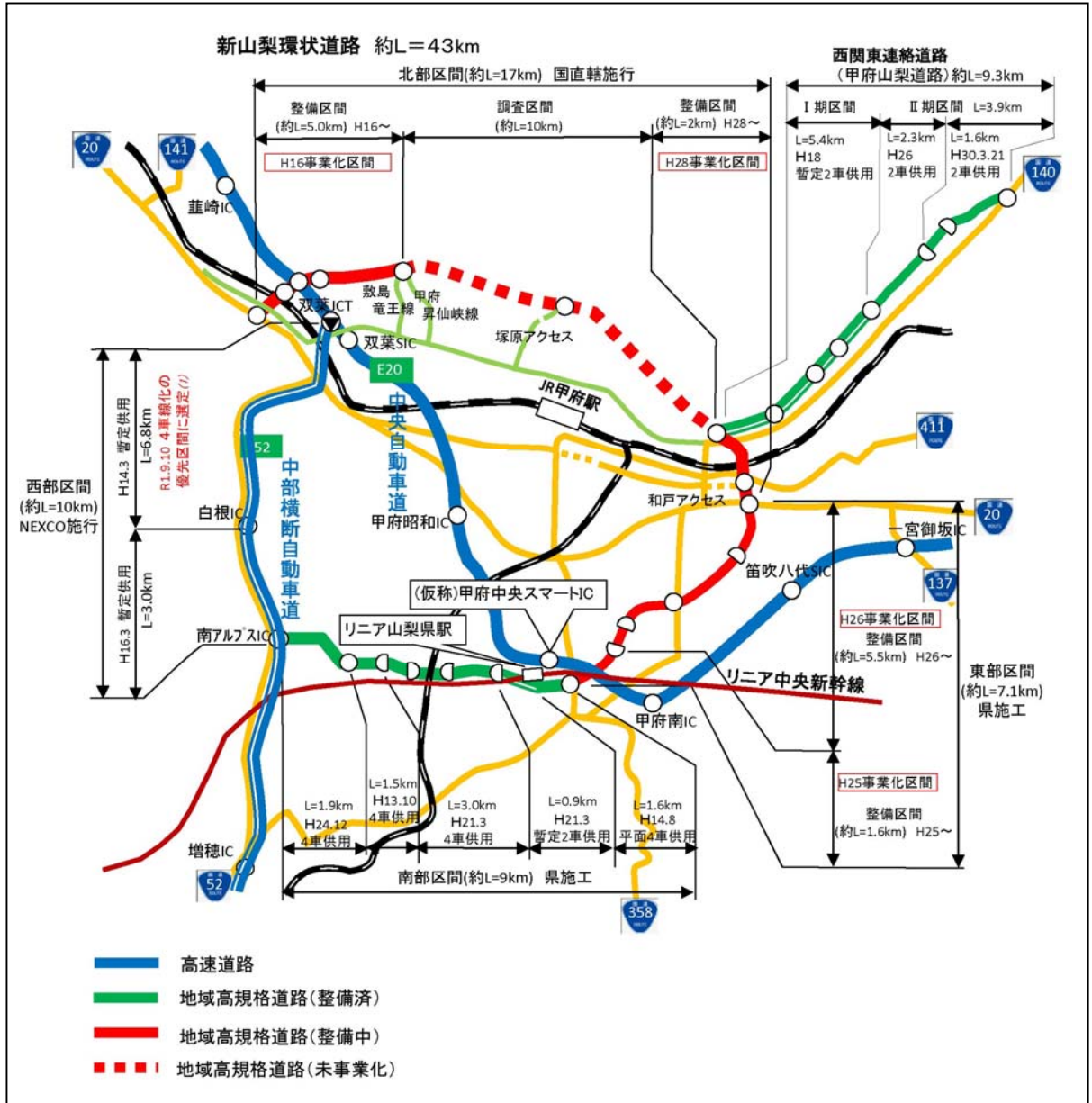
広域的な幹線道路としては、東京方面と長野方面を結ぶ動脈である国道 20 号をはじめ、奥多摩方面を結ぶ国道 411 号、秩父方面を結ぶ西関東連絡道路や国道 140 号、河口湖方面を結ぶ国道 137 号、本栖湖方面を結ぶ国道 358 号が通っています。

また、市の西部には新山梨環状道路（東部区間）の整備が進められており、国道 137 号の新たな御坂トンネルの整備が検討されているなど、本市は、これらの広域的な幹線道路の重要な交通結節地域となっています。

■笛吹市の幹線道路網



■新山梨環状道路の整備状況



[出典：山梨県県土整備部新山梨環状道路建設事務所]

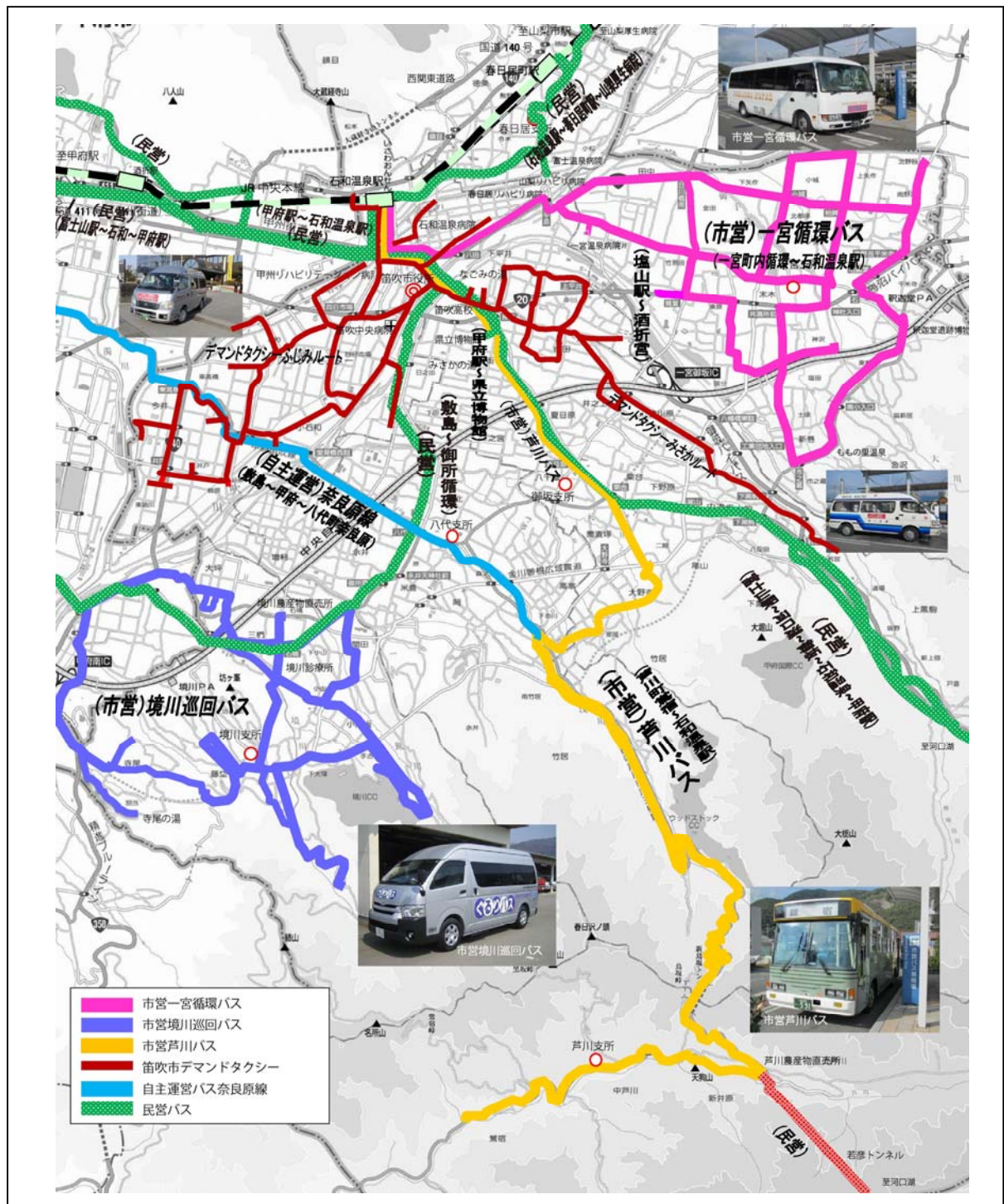
②鉄道・バス

鉄道では、JR 中央本線石和温泉駅と春日居町駅があり、東京と約 90 分で結んでいます。

市内のバス路線としては、市営の一宮循環バス、境川巡回バス、芦川バス、笛吹市デマンドタクシーが運行し、民営では、「富士山駅～石和温泉駅～甲府駅」「石和温泉駅～春日居町駅～山梨厚生病院」「敷島～御所循環」などの路線が市内を運行しています。そのほかに甲府市と共同で自主運営バス奈良原線が運行しています。

高速バスについては、甲府駅と新宿駅を結ぶ路線が市内を運行しており、バス停が、中央自動車道区間内の釈迦堂、甲斐一宮、御坂、八代、境川に 5 か所、一般道区間には石和地区の市部通りと一宮地区の国道 20 号に 2 か所あります。

■主な市内バス路線図



〔資料：笛吹市企画課資料〕

7) 基盤施設の整備状況

①道路

本市の国道、主要地方道、一般県道、市道の整備状況は、次表の通りで、着々と整備が進められています。

■道路の整備状況

[平成29年4月現在]

項目	一般国道指定区間 (m)	一般国道指定外 (m)	主要地方道 (m)	一般県道 (m)	市道 (m)
延長	8,850	35,025	36,644	74,016	909,219

[資料：道路現況表（平成29年4月、山梨県）]

また、都市計画道路は、現行用途地域周辺に計10路線が計画決定されており、平成28年3月現在、41.4%の整備率となっています。

■都市計画道路の整備状況

[平成28年3月現在]

都市計画道路名称	計画延長 (m)	整備済延長 (m)	都市計画道路名称	計画延長 (m)	整備済延長 (m)
西関東連絡道路	2,840	2,840	八田線	1,020	200
甲府バイパス	2,980	1,340	鶺鴒橋松本線	1,350	164
甲府外郭環状道路 東区間	4,270	0	文化川中島線	680	0
石和市部通り線	950	950	石和温泉駅前松本線	250	250
石和温泉駅前線	1,500	1,500	計	17,470	7,244
石和本通り線	1,630	0			

[資料：笛吹市都市計画基礎調査（平成29年）]

②公園・緑地

本市の公園は、平成31年4月現在、都市公園が6か所（面積37.21ha）、その他の公園が20か所（面積30.62ha）設置されており、市民一人当たりの公園面積は9.76㎡/人となっています。

■都市公園等の整備状況

[平成31年4月現在]

区分		か所数	面積(ha)	摘要
都市公園	街区公園	5	1.61	石和小林公園、石和温泉駅前公園など
	都市緑地	1	35.6	県立森林公園金川の森
	小計	6	37.21	
その他の公園		20	30.62	八代ふるさと公園、みさか桃源郷公園など
計		26	67.83	
市民一人あたりの公園緑地面積		9.76㎡/人		67.83ha/69,463人≒9.76㎡/人

[資料：市まちづくり整備課資料]

③下水道

本市の下水道は、昭和 54 年の整備開始以来順調に進み、令和 2 年 3 月末で、供用開始区域は約 2,053ha で、整備率は 79.3%となっています。

■下水道の整備状況

[令和2年3月現在]

区 分	項 目	計 画	供 用	整備率 (%)
笛吹市公共下水道	排水区域	2,589ha	2,053ha	79.3
	処理区域	2,589ha	2,053ha	79.3
	下水管渠	—	398,136m	
峡東流域下水道	排水区域	2,589ha	2,053ha	79.3
	処理区域	2,589ha	2,053ha	79.3
	ポンプ場	2 箇所 1,215 m ²	2 箇所 1,215 m ²	100.0
	処理場	1 箇所 136,000 m ²	1 箇所 136,000 m ²	100.0

[資料：笛吹市下水道課資料]

④上水道

本市の上水道は、上水道事業及び簡易水道事業により供給されており、平成 31 年 3 月現在、普及率は 99.2%となっています。

■上水道の普及率

[平成31年3月現在]

種 別		人口・普及率
行政区域内総人口 (人)		69,436
給水人口 (人)	上水道	67,346
	簡易水道	1,534
	計	68,880
普及率 (%)		99.2

[資料：山梨県の水道 (令和 2 年 10 月、山梨県)]

⑤処理施設

本市の処理施設としては、笛吹市クリーンセンター (汚物処理場)、甲府・峡東クリーンセンター (ごみ処理場) が整備されています。

■処理施設の整備状況

種 類	名 称	面積 (m ²)	処理能力等
汚物処理場	笛吹市クリーンセンター	3,710	40KL/日
ごみ処理場	甲府・峡東クリーンセンター	53,100	焼却施設：369 t / 日 処理施設：67 t / 日

[資料：山梨県の都市計画 (平成 27 年 3 月、山梨県都市計画協会)]

⑥石和温泉駅の整備

石和温泉駅については、平成 26 年～平成 28 年にかけて橋上駅舎、南北自由通路、南口駅前広場、北口駅前広場が整備され、平成 27 年 3 月に橋上駅舎、平成 28 年 2 月に北口駅前広場の供用が開始されています。

8) 法適用の状況

①都市計画の指定状況

(ア) 都市計画区域

平成 23 年 4 月に都市計画区域の再編が行われ、本市は「笛吹川都市計画区域」に属しており、その総面積は 11,174ha で、そのうち笛吹市域が 8,820ha となっています。

■笛吹川都市計画区域に属する地区

笛吹市：石和、御坂、一宮、八代、境川、春日居
甲府市：中道
中央市：豊富

■笛吹川都市計画区域



(イ) 用途地域

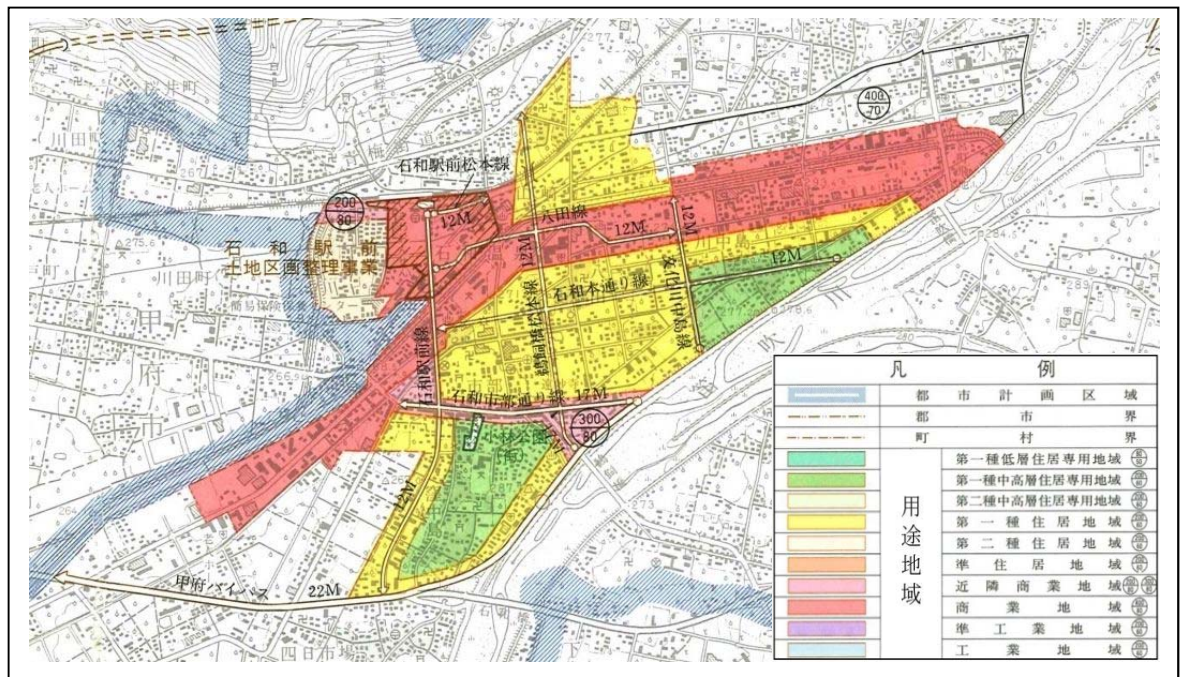
用途地域は、次図に示す石和地区に面積約 235ha の区域が指定されています。

■用途地域の指定状況

用途地域区分	面積(ha)	比率 (%)	容積率／建ぺい率
第一種中高層住居専用地域	33.0	14.0	200／60
第一種住居地域	98.0	41.7	200／60
第二種住居地域	10.0	4.3	200／60
近隣商業地域	13.0	5.5	200／80,60
商業地域	81.0	34.5	400／80
計	235.0	100.0	

〔資料：山梨県の都市計画（平成 27 年 3 月、山梨県都市計画協会）〕

■笛吹市都市計画総括図（用途地域指定部分）



(ウ) 市街地整備

市街地整備では、石和温泉駅前土地区画整理事業が都市計画決定され、平成 25 年 3 月に整備が完了しています。

このほか、石和駅前地区と石和市部通り地区において地区計画を指定し、計画的な市街地整備を推進しています。

■市街地整備の実施状況

項目	地区名	面積 (ha)
土地区画整理事業	石和温泉駅前	13.1
地区計画	石和駅前地区	13.0
	石和市部通り地区	3.16

(エ) 都市計画施設

都市計画施設は、次のとおり都市計画決定されています。

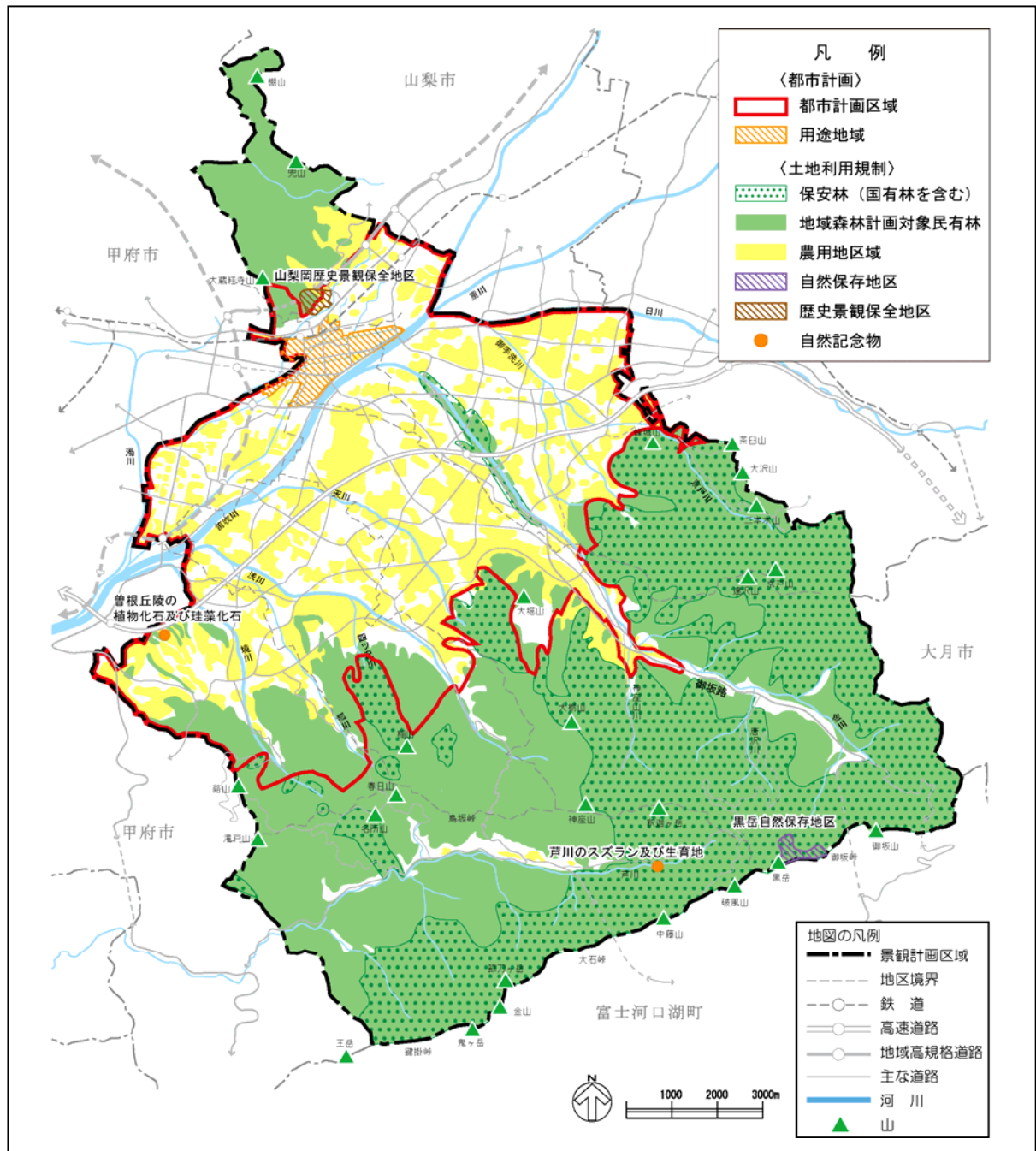
■都市計画施設の指定状況

●都市計画道路 10 路線	
・西関東連絡道路	3,190m (幅員 36m・27m・25m・18m)
・甲府バイパス	2,980m (幅員 22m)
・甲府外郭環状道路東区間	4,350m (幅員 18m)
・石和市部通り線	950m (幅員 17m)
・石和温泉駅前線	1,500m (幅員 12m)
・石和本通り線	1,630m (幅員 12m)
・八田線	1,020m (幅員 12m)
・鵜飼橋松本線	1,350m (幅員 17m・12m)
・文化川中島線	680m (幅員 12m)
・石和駅前松本線	250m (幅員 12m)
●都市計画公園 1 か所	
・石和小林公園 街区公園	0.48ha
●都市計画緑地 1 か所	
・境川寺尾緑地	4.0ha
●公共下水道	
・全体計画面積	2,589ha
●処理施設	
・笛吹市クリーンセンター	
・甲府・峡東地域クリーンセンター	

②その他の法適用の状況

その他の土地利用規制に関する法適用としては、森林法に基づく保安林及び地域森林計画対象民有林、農業振興地域の整備に関する法律に基づく農用地区域、山梨県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地区*が指定されています。

■土地利用規制に関する法適用の状況



注) *本市における自然環境保全地区としては、山梨岡歴史景観保全地区(16.5ha)、芦川のニホンスズラン生育地(2.6ha)、黒岳自然保存地区(12ha)が指定されています。

9) 防災の状況

本市は、山梨県の多くの地域とともに南海トラフ地震の地震防災対策強化地域に指定されています。

このため、本市では、「笛吹市地域防災計画」や「笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成し、総合的な防災対策を推進しています。

① 笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ

本市では、台風や集中豪雨などによる土石流やがけ崩れなどが発生した場合に被害の及ぶおそれがある「土砂災害警戒区域」及び、河川の氾濫による「浸水想定区域」並びに「指定避難所」等を示したハザードマップを作成し、防災意識の啓発に努めています。

② 防災拠点・避難場所等

本市では、地域防災計画に基づき、次のとおり指定避難所 30 か所、指定緊急避難場所 22 か所、福祉避難所 8 か所が指定されています。



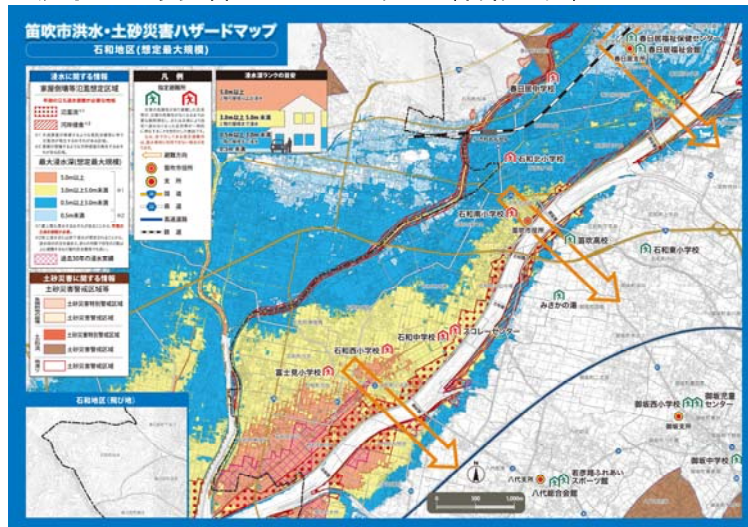
・笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ

■指定避難所、指定緊急避難場所、福祉避難所

区分	指定施設
指定避難所 (30 か所)	石和南小学校、石和東小学校、石和北小学校、富士見小学校、石和西小学校、石和中学校、スコレーセンター、笛吹高校、御坂西小学校、御坂児童センター、御坂中学校、御坂東小学校、みさかの湯、一宮中学校、一宮西小学校、一宮南小学校、一宮北小学校、八代総合会館、若彦路ふれあいスポーツ館、浅川中学校、八代小学校、境川スポーツセンター体育館、境川小学校、境川坊ヶ峯ふれあいセンター、寺尾の湯、春日居小学校、春日居中学校、春日居福祉保健センター、春日居福祉会館、芦川小学校
指定緊急避難場所 (22 か所)	石和南小学校グラウンド、石和東小学校グラウンド、石和北小学校グラウンド、富士見小学校グラウンド、石和西小学校グラウンド、石和中学校グラウンド、石和農村スポーツ広場グラウンド、御坂西小学校グラウンド、御坂中学校グラウンド、御坂東小学校グラウンド、みさかの湯（グラウンド）、一宮中学校グラウンド、一宮西小学校グラウンド、一宮南小学校グラウンド、一宮北小学校グラウンド、浅川中学校グラウンド、八代小学校グラウンド、境川スポーツセンターグラウンド、境川小学校グラウンド、春日居小学校グラウンド、春日居中学校グラウンド、芦川小学校グラウンド
福祉避難所 (8 か所)	石和清流館、なごみの湯、御坂福祉センター、一宮児童館、八代福祉センター、境川坊ヶ峯ふれあいセンター、春日居福祉保健センター、芦川ふれあいプラザ

[資料：笛吹市地域防災計画]

■洪水・土砂災害ハザードマップ（石和地区）



[出典：笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ]

10) 主な地域資源

①桃源郷の美しい景観と優れた眺望

本市は、日本有数の果実の生産地で、特に、桃・ぶどうは栽培面積、収穫量、出荷量いずれも全国市町村の中で一番を誇っています。この果樹園が広がる風景は、本市の大きな地域資源となっており、平成 29 年 3 月に農林水産省により、「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」として日本農業遺産に認定され、平成 30 年 5 月には文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景～山梨県峡東地域～」として日本遺産に認定されました。

■日本遺産「葡萄畑が織りなす風景～山梨県峡東地域～」の笛吹市に関わる構成遺産

構成遺産	文化財の指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
ぶどう畑	未指定	江戸時代に考案された棚栽培を改良し、平地から急斜面まで見渡す限りぶどう畑が広がっています。明治時代までは甲府盆地東部の勝沼地区に限られていましたが、現在では峡東地域の各地に広がっています。	山梨市 笛吹市 甲州市
甲州式棚栽培	未指定	竹を使った棚栽培により、江戸時代中期には甲州は日本一のぶどう生産量を誇るようになり、後に甲州式と呼ばれました。また明治31年に丈夫な針金を導入することにより、平地から急斜面までぶどうを栽培できるようになりました。	山梨市 笛吹市 甲州市
ルミエール旧地下発酵槽	有形文化財登録(建造物)	本格的なワイン醸造が始まった頃の古い醸造施設で、明治34年に造られた石造りの発酵槽。現在もこの発酵槽が使用されてワインが作られています。	笛吹市
歴史的ワイナリー	未指定	日本のワイン産業の黎明期からワイン醸造を行っている創業100年以上の歴史をもつワイナリーや東京オリンピックを契機とするワインブーム以前に創業した50年以上の歴史をもつワイナリー。最新の設備などでワインづくりを行っています。	山梨市 笛吹市 甲州市
甲州ワイン	未指定	甲州ぶどうを使用しワインが醸造されています。	山梨市 笛吹市 甲州市
ぶどう酒	未指定	100年以上前に農家を主体としたワインづくりにより地域に根付いた地酒。一升瓶に詰められ、湯呑茶碗で飲むという飾らない飲み方で楽しまれています。	山梨市 笛吹市 甲州市
一宮浅間神社	未指定	御祭神の木花開耶姫は酒造の守護神でもあり、約半数の県内ワイナリーが、農作業が始まる時期になると、1升瓶ワインを奉納しています。	笛吹市

また、本市の盆地状の地形は、眺望に適しており、山麓の高台や稜線などには、優れた眺望場所がいくつも存在しています。

■優れた眺望場所

- 山麓からの甲府盆地や周囲の山々の眺望（釈迦堂 PA・釈迦堂遺跡博物館周辺、花見台・金沢憩いの森公園、御坂路さくら公園、みさか桃源郷公園、リニアの見える丘・花鳥山一本杉公園、八代ふるさと公園、坊ヶ峯、中央自動車道、御坂路、若彦路、みやさか道（東八中央農免道路）、東山広域農道（フルーツライン）、JR 中央本線など）
- 山頂や稜線からの眺望（御坂山、御坂峠、新道峠、大石峠、節刀ヶ岳、鬼ヶ岳、鍵掛峠、鶯宿峠、大蔵経寺山、兜山など）

②豊かな自然

本市は、市域の約8割が森林をはじめとした自然的土地利用で占められ、山岳、河川や水辺は登山やトレッキング、自然とのふれあいの場として活用されています。

■主な自然資源

- 山岳
 - ・大蔵経寺山や兜山、御坂山系（達沢山、春日山、釈迦ヶ岳、黒岳など）の登山・トレッキングコース
- 自然とのふれあいの場
 - ・笛吹川の水辺、稲山ヶヤキの森、四ツ沢川、八代ふるさと公園、みさか桃源郷公園、森林公園 金川の森、御坂路さくら公園、藤笠の滝周辺
- 貴重な自然
 - ・ニホンスズランの群生地（「山梨県自然環境保全条例に基づく自然記念物」）
 - ・ブナの原生林が分布する黒岳周辺（「山梨県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地区（自然保存地区）」）

③歴史文化資源

本市の歴史は古く、古代では甲斐国の政治・文化の中心地、中世は武田家ゆかりの地、江戸時代は、甲州街道、若彦路、鎌倉街道、秩父路の往来の要衝として栄えてきた歴史があり、数多くの歴史文化資源が分布しています。

■主な歴史文化資源

- ・日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」釈迦堂遺跡・一の沢遺跡・桂野遺跡
- ・岡銚子塚古墳や竜塚古墳、姥塚古墳など古墳時代の遺跡など
- ・山梨県最古の寺である寺本廃寺跡
- ・甲斐国府、国衙、甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡、石禾御厨など

④温泉

市内には、全国屈指の温泉郷である石和・春日居温泉があります。温泉街には温泉入浴施設が多数立地しており、また足湯広場も整備されています。

⑤祭りやイベント

市内では一年を通じて各種の祭りやイベントが実施されています。代表的なものとして、次のものとなります。

■主な祭りやイベント

- | | | | |
|------------|--------------|------------|------------------|
| ・2月中旬～3月中旬 | ハウス桃宴 | ・7月中旬～8月中旬 | 笛吹川石和鶉飼 |
| ・3月下旬～4月上旬 | 桃源郷春まつり | ・8月中旬 | 甲斐いちのみや大文字焼き |
| ・4月上旬 | 桃源郷を歩こう | ・8月下旬 | 石和温泉花火大会 |
| ・4月上旬 | 笛吹市桃の里マラソン大会 | ・10月下旬 | 川中島合戦戦国絵巻 |
| ・5月中旬 | すずらの里まつり | ・11月上旬 | ヌーボーde乾杯!カウントダウン |

⑥特産品

本市では、桃・ぶどう・柿などの果実栽培が盛んであり、観光農園も数多く分布しています。また、ワインの産地としても高い人気を博しており、ワイナリーには観光客が多く訪れています。このほか、ほうとうなどの郷土料理も多くの人々に親しまれています。

2. 笛吹市をとりまく環境の変化と市民意向

(1) 社会・経済的動向

笛吹市をとりまく社会・経済状況は大きく変化しつつあります。時代の変化に柔軟に対応したまちづくりを進めるために、次のような社会・経済的動向に留意していくことが必要です。

① 人口減少、少子・高齢社会の進行

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、我が国の人口は、平成 20 年（2008 年）の 1 億 2,808 万人をピークに減少期に入っており、令和 35 年（2053 年）には 1 億人を割ると推計されています。

また、少子化と高齢化が同時に進み、令和 32 年（2050 年）には年少人口の占める割合は、平成 27 年（2015 年）の 12.5%から 10.6%に低下し、老年人口（65 歳以上）の占める割合は 26.6%から 37.7%に上昇するものと見込まれています。

本市においても、人口減少や少子・高齢化は着実に進行しています。

将来的に人口減少、少子・高齢化が進む中、年金、医療、介護などの社会保障制度の維持、地域においては活力が低下するなどの問題が生じると懸念されており、これらに対応するまちづくりが求められています。

② 市民の価値観やライフスタイルの多様化

社会や経済の成熟化、国際化や情報化が進む中で、人々の意識は、これまでの経済的、物質的な豊かさを重視する考え方から、自身の趣味や嗜好を重視するようになり、人々のライフスタイルや価値観は、更に多様化してきました。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「新しい生活様式」に取り組んでいくことが求められています。

今後、このような傾向は、ますます進むと考えられ、暮らし方や働き方など、多様な市民ニーズに的確に答えるまちづくりが求められています。

③ 情報化社会への対応

我が国では、情報化の進展に伴い、いつでもどこでも情報に触れ、情報を収集でき、インターネットを介したコミュニケーションを図る環境が急激に進んでいます。

政府は、潜在的な需要を獲得するため国内外の新たな市場を開拓し、健康産業、観光、農林水産業、エネルギー等の成長産業化など、ロボットや人工知能（AI）の活用等に積極的に取り組むこととしています。本格的な情報化社会の到来により、社会システムそのものが大きく変化しつつあります。

④ 安全・安心に対する意識の高まり

我が国では、甚大な被害をもたらした東日本大震災や熊本地震をはじめ、集中豪雨による大規模な水害や土砂災害などの大規模自然災害が日本各地で発生しています。今後も大規模な災害の発生が危惧される中、防災に対する国民の意識が高まりを見せています。

また、身近な地域社会における交通事故や事件、犯罪に対する不安の高まりとともに、安全、安心に対する意識も強くなっています。

⑤ 環境への意識の高まり

地球温暖化をはじめ地球規模で環境問題が深刻化する中、我が国では、森林や水資源の保全、低炭素社会・循環型社会の構築など、環境への意識が高まっています。

また、東日本大震災時の原子力発電所の事故を契機に、太陽光、風力などの再生可能エネルギーへの関心も高まりました。

こうした環境意識の高まりを受け、再生可能エネルギーの推進やごみの減量化、資源化など環境への負荷が少ない社会の実現に向けた取組みが求められています。

⑥ 協働によるまちづくり

平成12年（2000年）に施行された地方分権一括法によって、国から地方へ権限や財源を移譲する地方分権改革が進められ、地方自治体は、住民に最も身近な行政主体として、これまで以上に自主性と自立性を高めていくことが求められています。

一方、多様化する市民ニーズへの的確な対応が求められる中、行政主導による従来型の行政運営では、市民が必要とする行政サービスの提供や個別の課題解決には限界が生じ始めています。

成長の時代が終えんを迎えた今日、限られた財源とスリム化する行政組織において、自主的・自立的なまちづくりを展開していくためには、行政のみならず、市民、事業者などあらゆる主体が協働していくことが重要になっていきます。

(2) 山梨県都市計画マスタープランの位置付け

山梨県では、リニア中央新幹線の開業や、立地適正化計画制度の創設など、今後の都市づくりに大きな変化が生じることから、令和2年度に「山梨県都市計画マスタープラン」が改定され、現在「都市計画区域マスタープラン」(平成22年度)の改定作業が進められています。

計画では、笛吹市が属する中西部・南部広域圏域について、次のとおり広域圏域の都市づくりの基本理念や方向性、主要な都市拠点の配置等を位置づけています。

<基本理念>

恵まれた地域資源やリニア開業を活かした交流の拡大と、快適で潤いのある暮らしが育まれる広域圏域

<都市づくりの方向性>

- ①都市機能の集約と連携による活力ある拠点の整備
(甲府盆地全体を一体の都市として、広域・地域・生活拠点等への機能分担を図った都市機能の誘導と公共交通ネットワークの形成)
- ②農業や自然と調和した魅力的な多自然居住地域の創造
(農業環境と自然環境と調和、ゆとりある安全・安心な居住環境の形成)
- ③高規格道路や主要幹線道路の整備推進
(中部横断自動車道や新山梨環状道路、都市計画道路などの主要幹線道路の整備推進)
- ④市街地の拡散抑制とコンパクトな市街地の形成
(市街化調整区域や非線引き白地地域の無秩序な市街地の拡散の抑制、人口減少時代に対応したコンパクトで快適な市街地の形成)
- ⑤新たな高速交通体系の構築を活かした産業立地の推進
(中部横断自動車道や新山梨環状道路等のIC周辺への産業立地の推進)
- ⑥広域交流拠点と観光・交流ネットワークの整備
(リニア駅周辺整備の推進、リニア駅からのアクセス圏域の拡大、リニア駅と甲府駅を結ぶバス交通ネットワークの整備の推進)
- ⑦地震災害や風水害などに配慮した安全・安心な都市空間の実現
(防災拠点や道路・交通・情報ネットワークの整備、安全・安心な都市空間の実現)

<主な都市拠点の配置方針>

【広域拠点】

- 広域拠点：甲府駅周辺
- 広域交流拠点：リニア山梨県駅周辺

【笛吹市の主な都市拠点*】

- 地域拠点：石和温泉駅周辺
- 地区拠点(候補地)：一宮支所周辺、御坂支所周辺、八代支所周辺、境川農産物直売所周辺、春日居支所周辺
- 産業拠点：石橋工業団地周辺

[出典：山梨県都市計画マスタープラン(令和2年10月)]

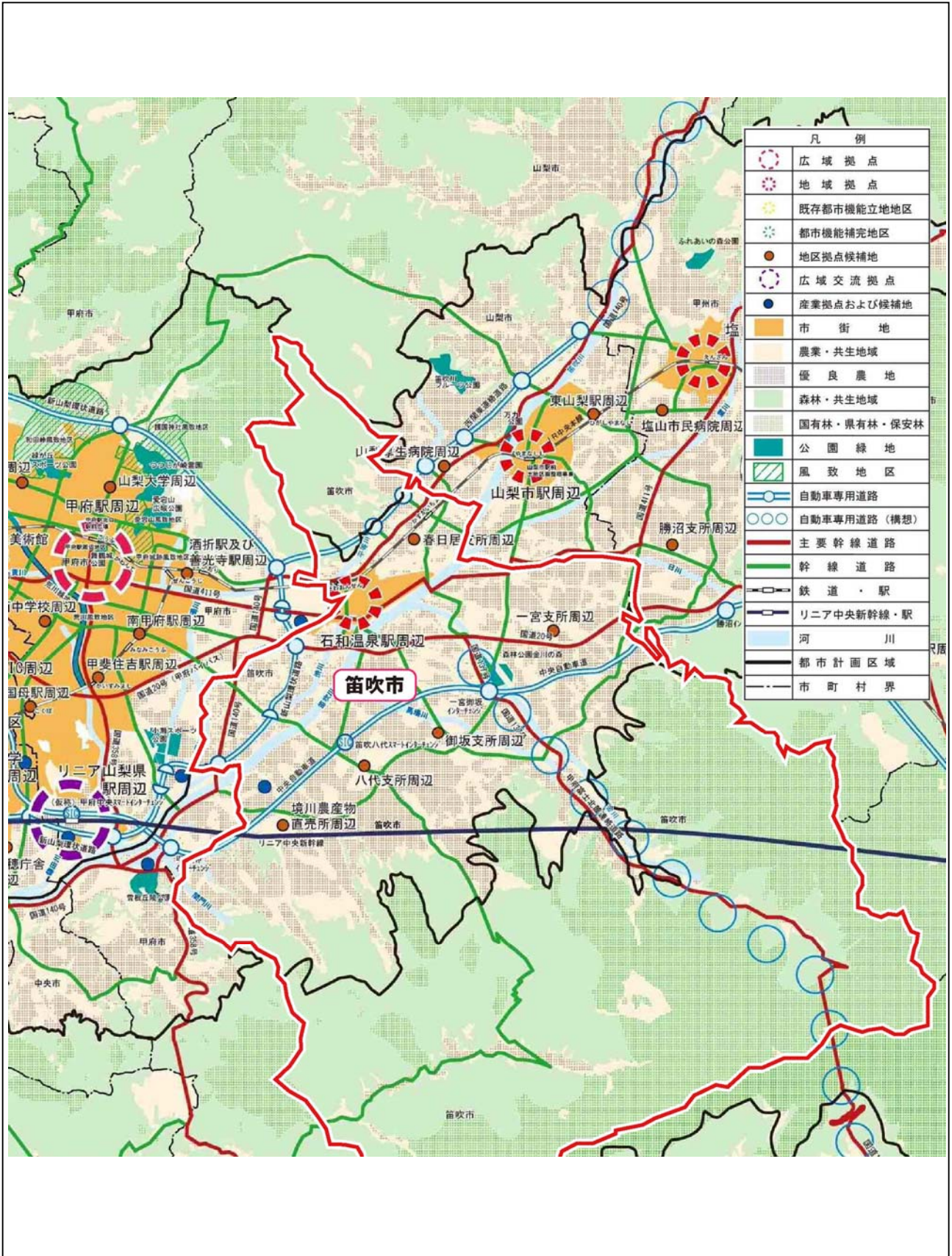
注) * 山梨県都市計画マスタープランにおいて各都市拠点は以下のような位置付けとなっています。

地域拠点：都市圏域の自立を支え、牽引する拠点として、行政、医療、教育、文化、商業等の多様な都市機能のうち、生活圈や経済活動の広がりに応じ複数の都市機能を有し、不足する機能は地域拠点間同士もしくは広域拠点との連携によりお互いに補完する。

地区拠点：身近な生活に密着した活動を支える拠点として、公共公益施設、日用品を扱う商業施設等の日常サービスを提供する。

産業拠点：新たに製造業または物流業の集積に取組む地区、若しくは既に一定の規模を有する地区を中心にインターチェンジ等からのアクセス性、従業者の居住環境や通勤環境等、都市構造面の分析も踏まえ、立地条件に優れ、周辺環境との調和を図りながら秩序ある土地利用の実現を目指す。

■山梨県都市計画マスタープランにおける将来都市構造図（笛吹市周辺）



〔出典：山梨県都市計画マスタープラン（令和2年10月）〕

(3) まちづくりに対する市民意向 ～「第二次笛吹市総合計画アンケート調査」より

「第二次笛吹市総合計画」の策定にあたり実施した市民アンケート調査では、本市のまちづくり分野に関して次のとおり意向を示しています。

<市民アンケート調査の実施概要>

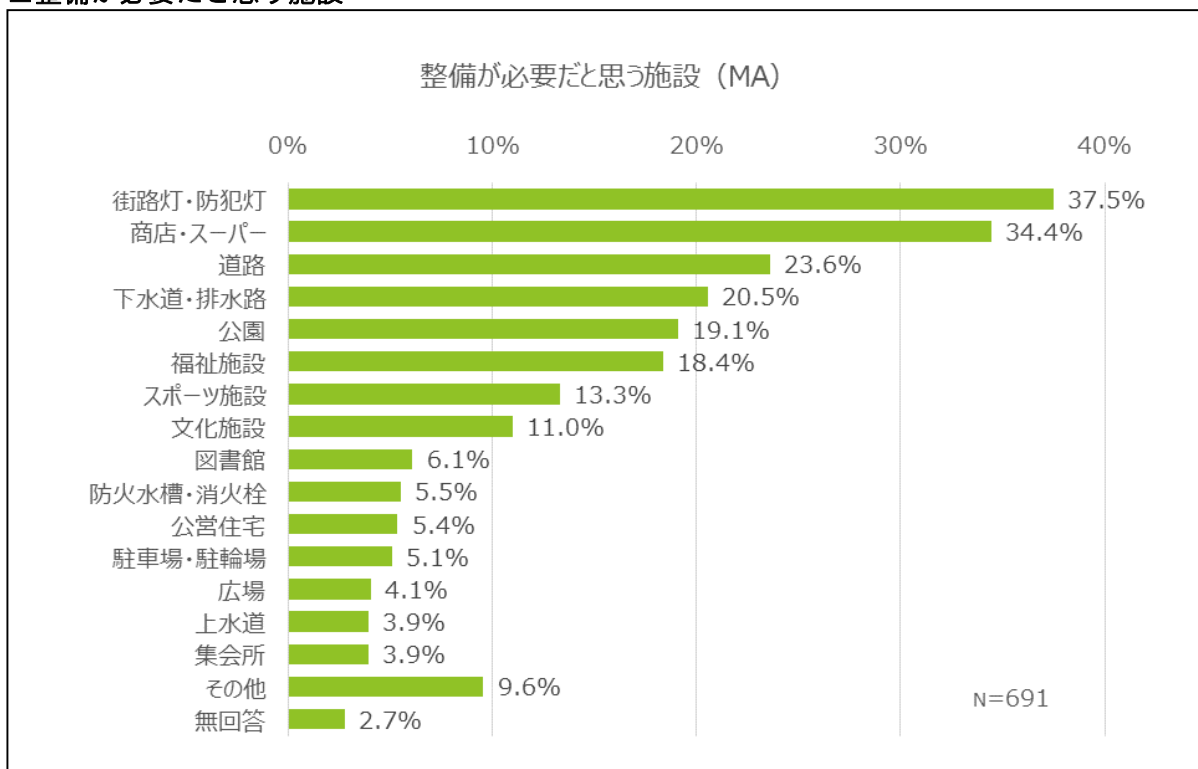
- 調査期間：平成 29 年 7 月 31 日～平成 29 年 8 月 21 日
- 調査対象：18 歳以上の市民 1,508 人
- 有効回収数：691 通、有効回収率：45.8%

<まちづくり分野に関する調査結果の概要>

①整備が必要だと思う施設

身近な住環境のなかで、どのような施設の整備充実が必要かについては、「街路灯・防犯灯」が 37.5%と最も多く、ついで「商店・スーパー」「道路」「下水道・排水路」「公園」「福祉施設」の順となっています。

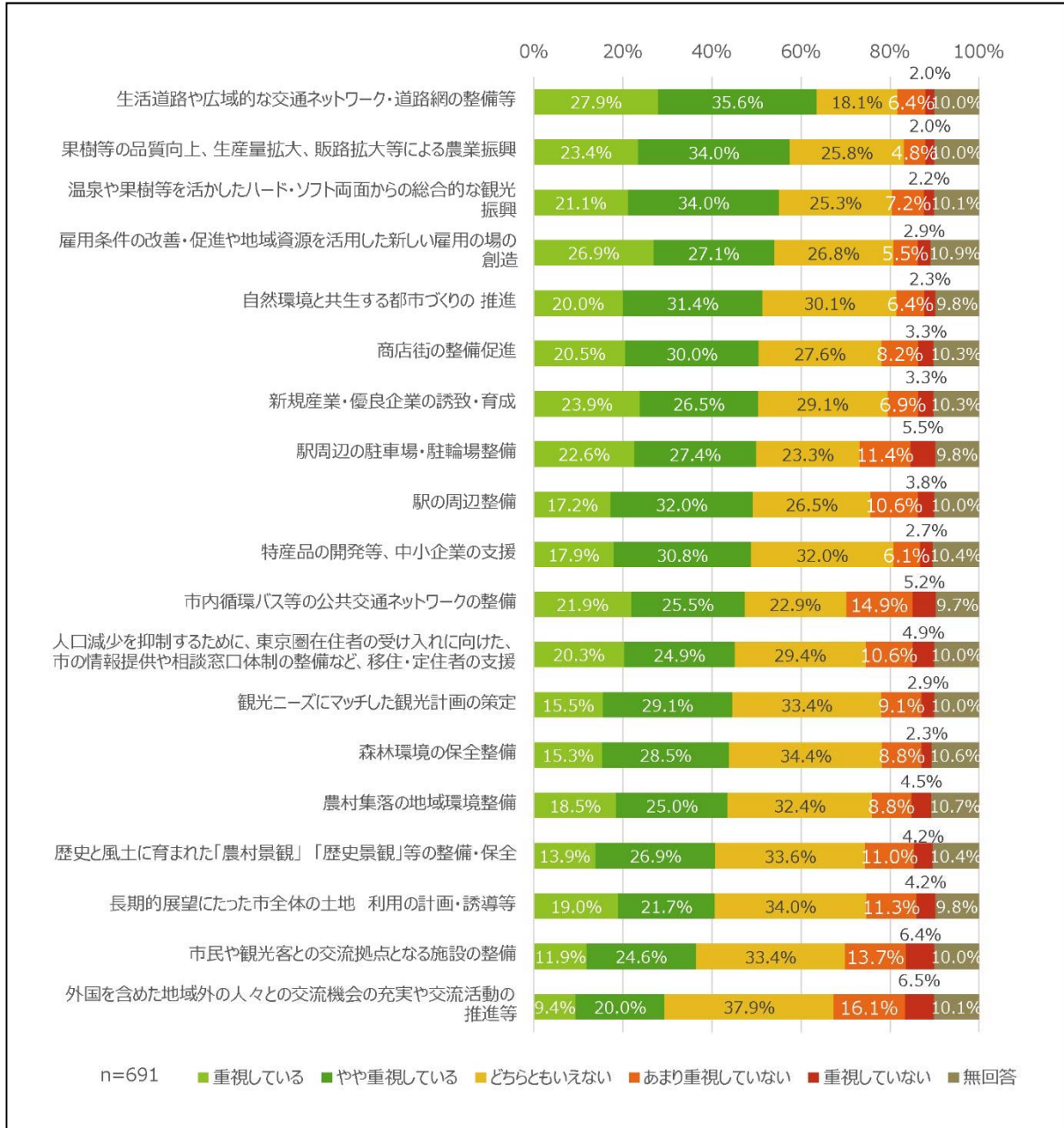
■整備が必要だと思う施設



②施策の重要度

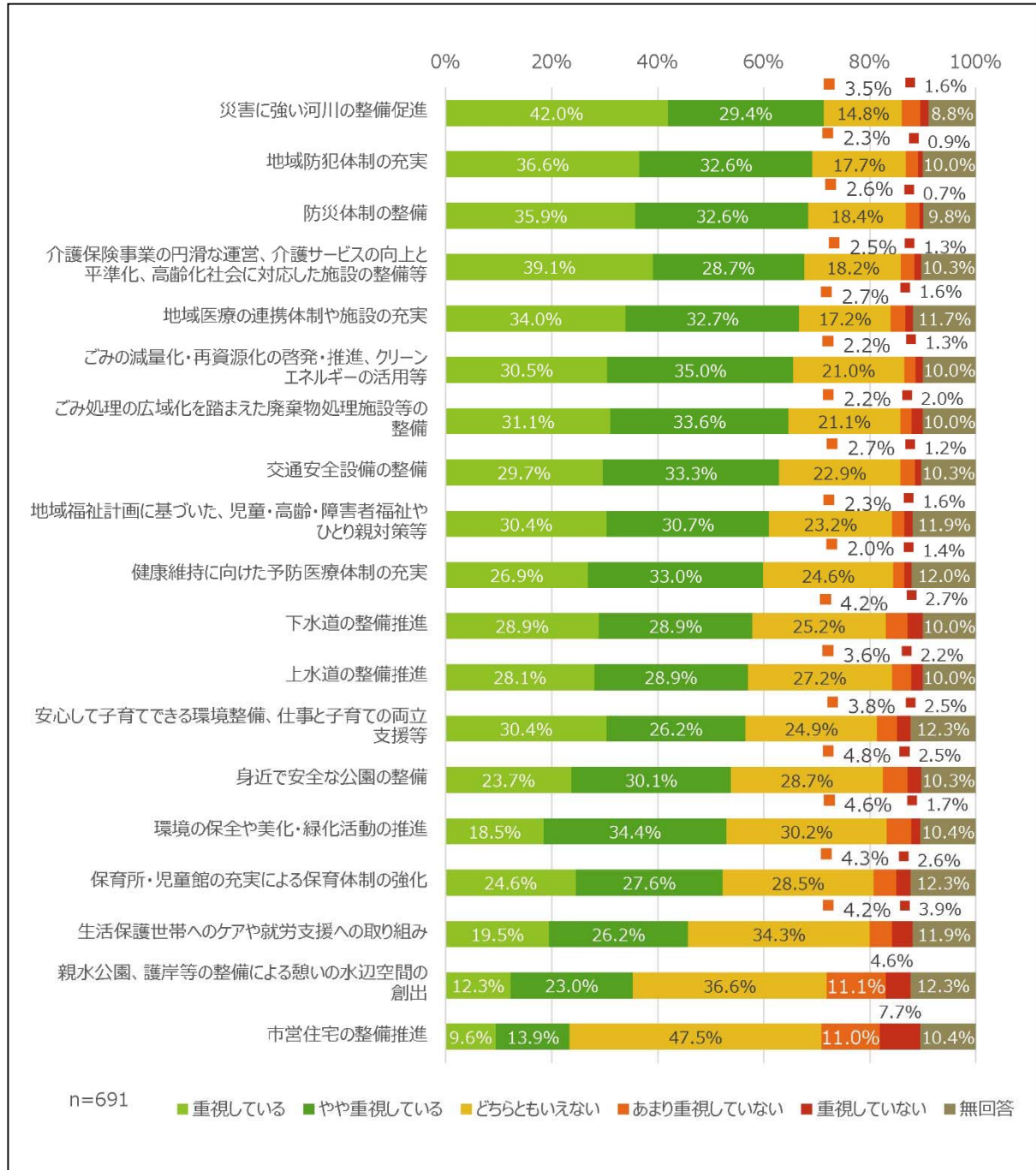
市街地整備、道路、交通、観光、農林業、商工業等に関わる施策で重要度が高いものとしては、「生活道路や広域的な交通ネットワーク・道路網の整備等」が最も多く、次いで「果樹等の品質向上、生産量拡大、販路拡大等による農業振興」「温泉や果樹等を活かしたハード・ソフトの両面から総合的な観光振興」の順となっています。

■施策の重要度（市街地整備、道路、交通、観光、農林業、商工業等）



防犯・防災、生活環境、自然環境、児童福祉、高齢者福祉、健康づくり等に関わる施策で重要度が高いものとしては、「災害に強い河川の整備促進」が最も多く、次いで「地域防犯体制の充実」「防災体制の整備」の順となっています。

■施策の重要度（防犯・防災、生活環境、自然環境、児童福祉、高齢者福祉、健康づくり等）



3. まちづくりに向けた主要な課題

本市の現状、上位計画の位置づけ、本市をとりまく社会・経済動向、まちづくりに対する市民意向等を踏まえ、今後のまちづくりに向けた課題を次のとおり整理しました。

【都市構造からみた課題】

① 人口減少、少子・高齢社会に対応した都市機能集約型の都市づくり

【本市の現状等】

- ・市の中央部を流れる笛吹川等の河川をはじめ、南部の山岳・森林地域、平地部から山麓一帯の農業集落地域、平地部の石和・春日居の市街地を中心とした中心市街地といったわかりやすい地形構造と地形に即した階層性のある都市構造を形成

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・本市の都市構造の特性を生かした人口減少社会、少子・高齢社会に対応した効率的な都市機能の集約化
- ・多様な都市の拠点相互に連携し、魅力を高め、コンパクトで一体感のある多核ネットワークの都市構造（コンパクト・プラス・ネットワーク）の構築

【土地利用からみた課題】

② コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりに向けた、地域の特性に応じた計画的な土地利用の推進

【本市の現状等】

- ・周辺を森林や丘陵地に囲まれ、石和・春日居の笛吹川周辺の低地部に中心市街地が形成され、そのまわりを取り巻くように樹園地と集落地が展開する、地方都市としての強みを生かした緑豊かな樹園都市を形成
- ・時代の変化や都市化の進展とともに、土地利用が変化し、特に郊外地域の無秩序な宅地化等（スプロール化）の進行とそれに伴う樹園地の減少

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・本市の大きな魅力である美しい自然と郷（果樹園・農村）と都市との調和
- ・良好な環境を維持・向上するための、地域の特性にあった計画的な土地利用の推進

【道路・交通からみた課題】

③ 広域的、地域間の交流を促す体系的な道路・交通ネットワークや、公共交通の連携と安全・安心な道路・交通環境づくり

【本市の現状等】

- ・JR 中央本線や中央自動車道（一宮御坂 IC、笛吹八代スマート IC）、新山梨環状道路、西関東連絡道路をはじめ、国道 20 号、国道 140 号、国道 137 号などの広域幹線道路が通る、広域交通の要衝
- ・本市西方に近接してリニア中央新幹線山梨県駅の設置が予定されており、広域的な交通アクセスの向上に伴う地域の発展が期待される

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・本市が目指すコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造の形成を図るための、地域間、拠点間を連携する体系的な幹線道路ネットワークやバス等の公共交通の連携
- ・長期間未着手となっている都市計画道路の適切な見直しをはじめ、主要な幹線道路の交通渋滞の緩和、主要な交差点や通学路等の交通安全対策の強化

【自然、景観、歴史文化等からみた課題】

④ 豊かな自然や個性的で美しい景観、特色ある歴史文化といった本市固有の地域資源の保全と、まちづくりへの活用

【本市の現状等】

- ・桃・ぶどう日本一の郷、豊かな歴史資源（古代ロマンあふれる郷「甲斐国・千年の都」）、温泉と季節を彩る祭りやイベント、桃源郷の美しい風景と優れた眺望、豊かな自然など、豊富な地域資源を有する
- ・縄文時代の釈迦堂遺跡や一の沢遺跡、甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡、山梨岡神社など、山梨県を代表する史跡や歴史的建造物をはじめ、社寺、古道（御坂路や若彦路）、芦川地域の兜造り民家群、名木や古木、塚・祠・道祖神といった身近な歴史資源も多く分布
- ・平成30年に文化庁により、「葡萄畑が織りなす風景～山梨県峡東地域～」のストーリーが、日本遺産に認定

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・本市の特色ある歴史性や豊かな歴史資源の保全とまちづくりへの活用
- ・豊かな自然と桃源郷の美しい景観の保全とまちづくりへの活用
- ・温泉と季節を彩る祭りやイベント等の多彩な地域資源の活用
- ・「日本遺産」等の効果的な活用

【観光振興からみた課題】

⑤ 果実と温泉をはじめ、地域の魅力や観光資源を最大限に生かした観光の振興など、都市全体の活力の向上

【本市の現状等】

- ・県下最大の温泉観光地、桃とぶどう日本一を誇る観光都市として発展
- ・多彩な祭りやイベントが行われているが、冬期の観光が脆弱
- ・本市に近接するリニア中央新幹線山梨県駅周辺は、広域交流拠点（交通結節機能、観光交流機能や産業振興機能など）としての位置づけ

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・今後とも活気ある都市として発展していくための、多様化する観光のニーズに応える都市としての活力の向上、訪れてみたいと思える魅力づくり
- ・温泉街など本市の顔となる中心市街地や地域拠点の魅力づくり、観光都市としての活力の向上
- ・本市の基幹産業である農業と連携した観光の活性化
- ・多彩な祭りやイベント、健康やスポーツ振興にも資する新たな地域資源の創出

【防災面からみた課題】

⑥ 水害や地震等の災害に強いまちづくり

【本市の現状等】

- ・東日本大震災やその後続いた大規模な豪雨・土砂災害により、改めて自然災害の怖さと災害に対する備えの必要性・重要性を認識
- ・本市は、過去に笛吹川の氾濫など、大きな水害に見舞われた歴史があり、近年も平成26年の記録的な大雪、令和元年の台風19号による記録的な大雨などに見舞われた
- ・南海トラフ地震が発生した場合の危険性も指摘される
- ・「第二次笛吹市総合計画」の策定に当たり実施した市民アンケート調査では「災害に強い河川の整備」「防災体制の充実」など、防災に関する施策の重要度が高い結果
- ・防災力の向上を図るため「笛吹市地域防災計画」や「笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ」を作成し、総合的な防災対策を推進

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・水害や雪害、地震等の災害に強いまちづくりの推進
- ・「笛吹市洪水・土砂災害ハザードマップ」の市民への周知徹底
- ・浸水想定区域や土砂災害危険区域等の防災対策の強化
- ・水害時の避難所の確保、機能強化

【生活環境からみた課題】

⑦ 誰もが安心・快適に住み続けられる住環境づくり

【本市の現状等】

- ・「第二次笛吹市総合計画」の策定に当たり実施した市民アンケート調査では、身近な生活環境について防災・防犯対策に次いで、「介護・医療サービスの充実」「ゴミの減量化、再資源化の啓発、クリーンエネルギーの活用」などが、重要度が高い施策という結果
- ・これらに続いて「交通安全設備の整備」「上水道・下水道の整備」「子育て環境の充実」「身近で安全な公園の整備」などが挙げられる

【まちづくりに向けた主要な課題】

- ・高齢者や子どもをはじめ人にやさしいまちづくりの推進（公共施設等のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入など）
- ・環境に配慮したまちづくりの推進（自然環境に配慮したまちづくり、再生エネルギー・省エネ・省資源の促進など）
- ・安心・快適な生活環境づくりの推進（身近な生活基盤施設や公園の整備、子育てしやすい環境づくりなど）



・甲斐国分寺跡